

『たい焼きのバラッド』

たい焼き：五十嵐啓輔

店主：津和野諒

たい焼き屋。

客席に対面する形で店主がたい焼きを焼いている。

焼き上がりを確認し、その内のふたつを包み紙に入れる店主。

店主　　はい、粒あん、おふたつ、お待たせいたしました（した一）

店主の横で、すっと立ち上がるたい焼き（被り物、全身黒タイツ）。

店主　　うおええっ！？

たい焼き　（店の前にいる客に）散れ！！人間どもが！！

店主　　（逃げていく客たちに）ちょっ、お客さん！お客さーん！！

（たい焼きを見て）えええっ！？

間。

たい焼き　俺はたい焼きだ…！

店主　　いや、だろうけども！ええっ？

たい焼き　俺はたった今お前に焼き上げられたたい焼きだ…！

店主　　（焼き機を見て）あっホントだ、一個なくなってる…！

たい焼き　お前はなんで俺がこんな姿になったか分かるか…？

店主　　や、わかんないです…

たい焼き　俺にも分からねえ…！

店主　　いや怖い怖い怖い怖い！

たい焼き　でもよお、ひとつだけ確かなことがあるんだよ…

店主　　？

たい焼き　お前に対する憎しみだよ！！

店主　　なんでなんで！？

たい焼き　お前は…俺から夢を奪った…俺の夢を踏みにじったんだ…

店主　　夢…？

たい焼き　お前、粒あんって知ってるか？

店主 知ってるう…！

たい焼き 俺の親父も、(店主：親父?) おじいちゃんも、
みんな粒あんを入れられてきたんだよ…！

店主 いや、たい焼きの血縁関係どういう仕組みになってんだよ！

たい焼き 俺も親父たちみたいなたい焼きになるのが夢だったんだ…だのに！！

店主 だのに？

たい焼き 俺の中に詰められたのはカスタードクリーム！！！！

店主 おお…

たい焼き カスタードクリームでパンパンなんだよ、この腹の中は！！(自分の顔を叩く)

店主 あ、そっか、そこお腹なんだね。

たい焼き 悔しい…悔しいよ俺は…

店主 なんか…ごめんね…

たい焼き 俺も立派な粒あん入れられて、子どもに喜んでもらいたかった！！

店主 うん、子どもはカスタードの方が好きなんじゃない？

たい焼き もう真っ白だよこっちは。おめえがカスタードクリーム入れたからなあ！！

店主 いやそういう注文があったからねえ…

たい焼き 注文…！ お前、たい焼きをなんだと思ってんだよ！！

店主 商品だと思ってるけど！？

たい焼き お前の血は何色だあ！！

店主 赤です…！

たい焼き (自嘲気味に) まあ俺にはカスタードクリームしか流れてねえけどな…！

店主 何その自嘲！ いや別に流れてもないけどね！？

たい焼き どうしてくれんだよ…！ こんなんじゃもうお嫁に行けねえよ！！

店主 ええ！？ お前、女だったの！？ お嫁！？

たい焼き なんだよ…差別か？ 人間様お得意の差別ですか！？

店主 いや、そういう意味じゃねえよ！ なんだ、人間様お得意の差別って。

たい焼き どうせお前みたいな人間には、
俺たちたこ焼きの気持ちなんて分からねえよなあ！！

店主 たこ焼き！？ あんだけ粒あんにこだわってたのに間違えて自分のこと、
たこ焼きって言っちゃった！？

間。

たい焼き うるせえええ！！！！

窓ガラスを破って外に飛び出したい焼き (SE：窓の割れる音→水に飛び込む音)。

店主　　えええっ！？

一人残される店主。

いつの間にかフェードインしていた『およげ！たいやきくん』に気が付く。

どこか悲しげに響く歌に耳を傾けながら、再びたい焼きを焼き始める。

店主　　（思い出して） いや窓ガラスう！！！！

〈おしまい〉